

■ 「都市計画公園のあり方」 検討の必要性

社会情勢が急激に変化する中で、主要な都市計画施設の一つとして、都市・まちづくりの課題改善のために、どのように積極的に活用できるかを検討。

■ 検討経過

- 常務委員会…都市・まちづくりの観点から都市計画公園の核となる府営公園を中心に、整備・管理・運営のあり方について検討
- 部会 …常務委員会での意見や各種提案について、府営公園で、どのような対応ができるか検討

○都市計画審議会 (H29.2.20)
・報告「都市計画公園のあり方について」

○第1回常務委員会 (H29.9.27)
・公園緑地に関する計画と現状
・公園緑地を取り巻く環境の変化
・府営公園の現状

○第1回部会 (H29.11.20)
・府営公園の意義
・大阪府公園基本構想の目標と府の取組み
・府営公園に対するニーズ

○第2回部会 (H29.12.18)
・府営公園の課題
・基本方針・基本理念
・中間報告(素案)

○第2回常務委員会 (H30.1.29)
・中間報告(案)

○都市計画審議会 (H30.2.9)
・中間報告(案)

I. 府営公園の意義

1. 府営公園の位置付け

① 「みどりの風を感じる大阪」を実現するための、みどりのネットワークの拠点

H21.12 みどりの大阪推進計画

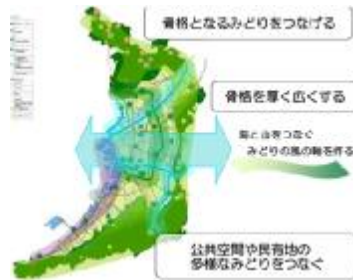
計画期間:2025年まで

目標・緑地を府域の4割以上確保

- ・市街化区域の緑被率40%以上
- ・みどりがあると感じる府民の割合5割⇒8割
- ・最近みどりに触れた府民の割合 5割⇒8割

- 基本戦略-1: みどり豊かな自然環境の保全・再生
- 基本戦略-2: みどりの風を感じるネットワークの形成
- 基本戦略-3: 街の中に多様なみどりを創出
- 基本戦略-4: みどりの行動の促進

みどりのネットワーク図



②大阪の都市づくりの基本目標を実現するための重要な都市基盤（高次都市機能）

H28.2 大阪府における都市計画のあり方（答申）

都市づくりの基本目標

- 国際競争に打ち勝つ強い大阪の形成**
国内外の人を呼び込む都市魅力の創造
・都市における実感できる豊かなみどりの形成
- 安全・安心で生き生きと暮らせる大阪の実現**
様々な自然災害に対し、減災の考え方にに基づき、ハードとソフトを適切に組合せた都市の防災機能の強化
- 多様な魅力と風格のある大阪の創造**
地域資源を生かした質の高い都市づくりの推進
・水・みどり、歴史・文化を活かした、多様な人が訪れ、多様な世帯が住まう都市の形成

3層の都市構造のイメージ

①大阪都市圏の都市構造



国営公園
万博記念公園

②高次都市機能ネットワーク型の都市構造



大規模公園
(府営公園)

③広域生活圏の都市構造



都市基幹公園

2. 府営公園の成り立ち

時代	公園名	主な要請	備考	
明治	住吉公園	景勝地の保全	太政官布達(M6)	
	寺面公園			
昭和	住之江公園	機能代替地 スポーツレクリエーション		
	枚岡公園	社寺山林の保全		
	長野緑地	都市の膨張抑止 休養・厚生利用	大阪緑地計画(S16)	
	服部緑地			
	大久宝寺緑地			
	高度経済成長期	二色浜公園	機能代替地 海浜レクリエーション	
		万博記念公園	事業跡地有効活用 自然の再生	大阪万博開催(S45)
		山田池公園	自然環境の保全	
		錦織公園		
	寝屋川公園	スポーツレクリエーション		
平成	蜻蛉池公園	自然環境の保全 スポーツレクリエーション		
	深北緑地	災害(浸水)への対応		
	石川河川公園	河川への親水需要		
	りんくう公園	良好な環境と海浜景観の創造		
	せんなん里海公園	海浜レクリエーション		
	震災後	服部緑地・久宝寺緑地等12公園	災害への対応 (広域避難場所)	阪神淡路大震災(H7)
泉佐野丘陵緑地		事業跡地有効活用 自然環境の保全		

公園毎の特性に応じて、時代の様々な社会要請に対応し、都市まちづくりの課題改善に貢献

II. 基本理念

多様な主体との協働の下、
大阪の成長と府民の安全・安心
に貢献する公園

【目標像】

《都市魅力》
大阪の魅力を高める公園

《府民生活》
府民の豊かな生活を育む公園

《安全安心》
府民の安全・安心を支える公園

《都市環境》
都市の自然環境を次世代に継承する公園

持続可能な公園の
整備・管理・運営の仕組みづくり

「都市計画公園のあり方」（中間報告）

〈案〉

Ⅲ. 府営公園を取り巻く環境の変化

○人口減少・少子高齢化の進行

- ・子育て支援機能充実の必要性
- ・高齢者の健康づくり支援の需要の高まり

○自然災害の発生リスクの高まりと甚大化

- ・南海トラフ地震の発生リスクの高まり
- ・水害、土砂災害の甚大化

○都市環境の悪化

- ・ヒートアイランド現象の顕在化
- ・生物多様性の低下

○国の動き 「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会最終報告書(H28年5月)」

〈新たなステージで重視すべき観点〉

- ・ストック効果をより高める
- ・民との連携を加速する
- ・公園を一層柔軟に使いこなす

○みどりに対する府民意識の高まり

- ・みどりに関するイベント等への参加者の増加
- ・民間開発に伴う都市の緑空間の創出

○グローバル化の進展

- ・国際的な都市間競争の激化
- ・訪日外国人旅行者の増加

○ライフスタイルの多様化

- ・地域コミュニティの弱体化
- ・新たな公による地域づくり

○投資余力の減少

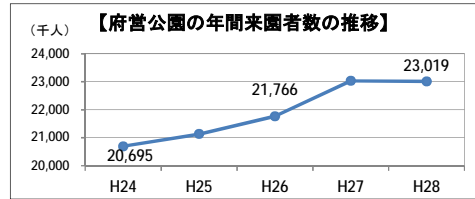
- ・公園関連予算の縮減
- ・技術職員の不足

都市緑地法等の一部を改正

Ⅳ. 府営公園の現状と課題

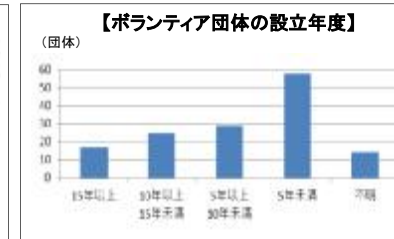
○公園に対する関心の高まり

- ・来園者が増加(H24年度 約2,070万人/年 ⇒ H28年度 約2,300万人/年)
- ・イベント参加者が増加(H24年度 35.4万人/年 ⇒ H28年度 116.6万人/年)



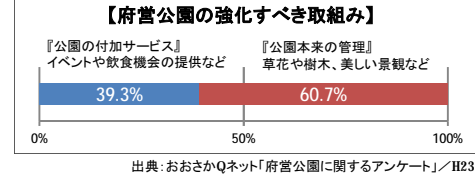
○多様な主体が公園づくりに参画

- ・学校や地域住民、民間企業等と連携した公園づくり(泉佐野丘陵緑地)
- ・近年、多数のボランティア団体が活動(145団体)



○ニーズの多様化

- ・管理の更なる充実(樹木の管理、施設清掃など)
- ・便益性の向上(便益施設の充実、多彩なイベントの開催など)
- 多様な利活用(ガーデンヨガ、各種ランニングイベント、フリーマーケットなど)



○防災公園の整備推進

- ・20公園のうち12公園が防災公園に指定(うち8公園は後方支援活動拠点に指定)

○施設や樹木の着実な維持・更新

- ・長寿化計画に基づく戦略的な更新
- ・定期的な点検による事故防止の取組み など

V. 基本方針

計画期間：概ね30年を見据えた10年間

都市魅力

① 公園毎の特色を活かし育み、“都市の顔”となる公園づくりを推進

- ・公園毎のマネジメントプラン策定
- ・質の高いみどり空間の創出・保全・活用 等

府民生活

② 民間活力を積極的に導入し、都市の活力を生み出す公園づくりを推進

- ・民間が参入しやすい環境整備
- ・便益施設やイベントの誘致 等

③ 公園を柔軟に使いこなし、地域社会に貢献する公園づくりを推進

- ・地域課題に対応した新たな施設の導入
- ・施設のコンバージョン等

安全安心

④ 府民の命を守る公園づくりを推進

- ・防災公園の拡張整備
- ・防災施設の改修
- ・防災意識啓発 等

⑤ 誰もが安全・安心・快適に利用できる公園づくりを推進

- ・ユニバーサルデザインの推進
- ・情報発信の強化 等

都市環境

⑥ 多様な自然とふれあい、都市の環境を保全する公園づくりを推進

- ・みどりの保全
- ・環境教育の場としての活用
- ・自然の重要性を発信 等

⑦ 持続可能な公園の整備・管理・運営の仕組みづくりを推進

●多様な主体が公園づくりに参画しやすい環境づくり

- ・公園の管理運営に携わる人材・財源の確保
- ・協議会の設立・協働を支える仕組みづくり 等

●公共性を担保する仕組みを構築

- ・公園審議会の設置
- ・公園毎の指標や評価手法の確立 等